



富山県舟橋村

# “舟橋型”パークマネジメント



# 1. 舟橋村について

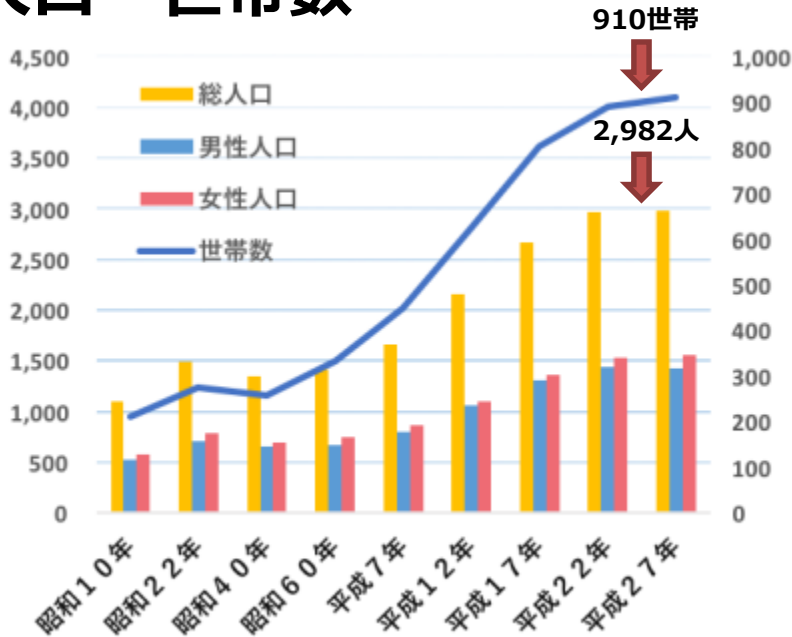
## ▼舟橋村の概況

富山平野のほぼ中央に位置し、面積は3.47km<sup>2</sup>と全国でも最も小さい自治体である。

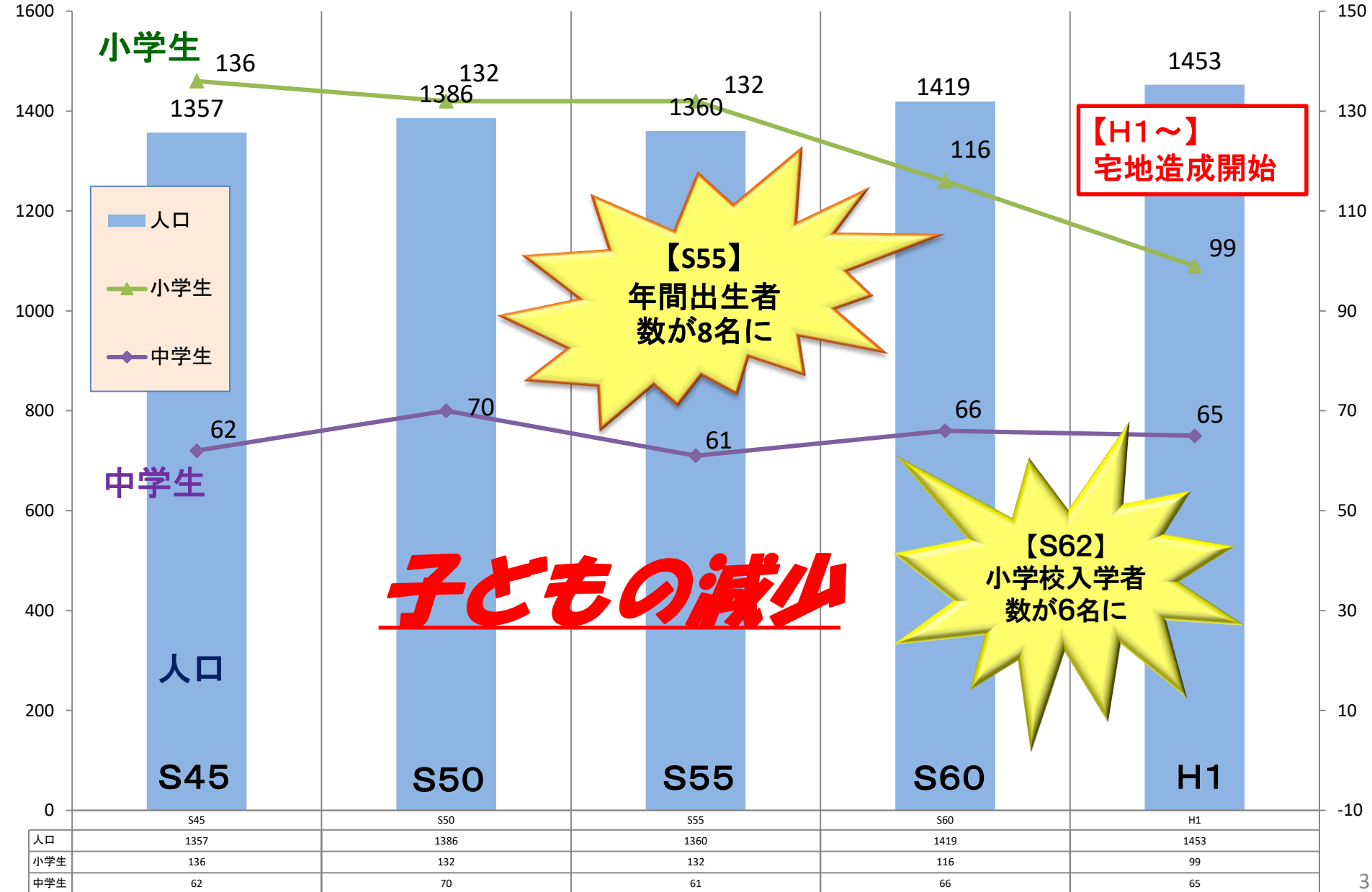
村内中央には富山地方鉄道が走り、富山市中心部へ約15分でアクセスすることができる。この恵まれた地理的条件から、近年ではベッドタウンとして人口・世帯数ともに大幅に増加している。



## ▼人口・世帯数



# 舟橋村のこれまで





H1

# 宅地造成時の舟橋村の強み

面積: 3.47km<sup>2</sup>

コンパクトなまち

## 【主要施設】

- ・役場
- ・小中学校
- ・保育所
- ・駅 等

インフラ整備

## 【地価】住宅団地 H6時点

市町村	場所	H6
舟橋村	東芦原	27,500
立山町	浦田	28,500
富山市	藤木	55,000

地価公示価格

近隣地域に比べ地価が安い

## 【交通の利便性】

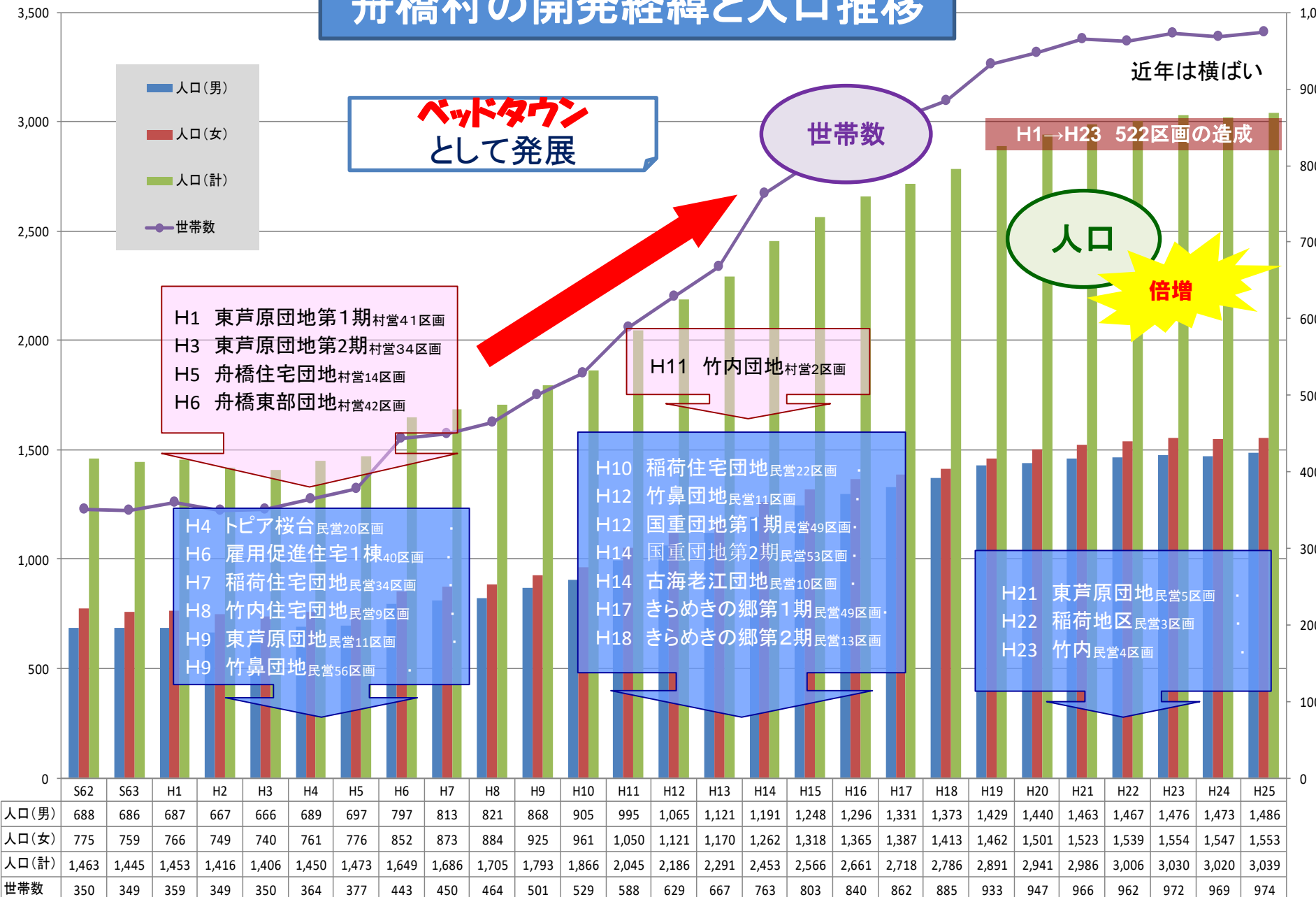
- ・地鉄富山駅から富山地方鉄道本線で13分
- ・北陸自動車道立山I・Cから5km
- ・主要道 国道8号線まで車で5分

アクセスのよさ





# 舟橋村の開発経緯と人口推移



	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
人口(男)	688	686	687	667	666	689	697	797	813	821	868	905	995	1,065	1,121	1,191	1,248	1,296	1,331	1,373	1,429	1,440	1,463	1,467	1,476	1,473	1,486
人口(女)	775	759	766	749	740	761	776	852	873	884	925	961	1,050	1,121	1,170	1,262	1,318	1,365	1,387	1,413	1,462	1,501	1,523	1,539	1,554	1,547	1,553
人口(計)	1,463	1,445	1,453	1,416	1,406	1,450	1,473	1,649	1,686	1,705	1,793	1,866	2,045	2,186	2,291	2,453	2,566	2,661	2,718	2,786	2,891	2,941	2,986	3,006	3,030	3,020	3,039
世帯数	350	349	359	349	350	364	377	443	450	464	501	529	588	629	667	763	803	840	862	885	933	947	966	962	972	969	974

## 2. “地方創生”までの道のり

### \* H20 富山大学との包括連携



### \* H24 若手職員研修

まちづくりが成功している事例の研究

“協働・共助とは”  
“行政の役割とは”



### \* H25 人口問題プロジェクトチーム

- (1) 村の現状・今後の課題分析
- (2) 先駆事例研究



# 人口増の影響

## 地域格差

### 【新旧住民】

コミュニティ断片化  
人付き合い希薄化  
地域活動崩壊  
行政依存度増加



## 近隣地価の下落

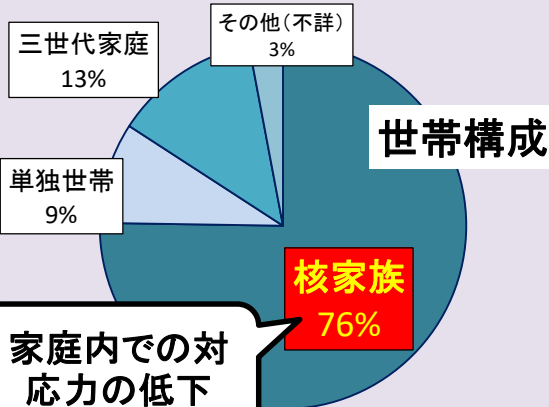
下落率も低く、  
割高感

市町村	地区	価格(円/㎡)					
		H6	H10	H15	H20	H25	H30
舟橋村	東芦原	27,500	28,300	29,000	27,300	24,000	23,800
立山町	浦田	28,500	28,800	28,000	21,900	18,300	17,300
立山町	利田		33,000	27,500	25,000	18,700	
富山市	藤ノ木	55,000	58,800	50,000	38,000	29,600	29,500

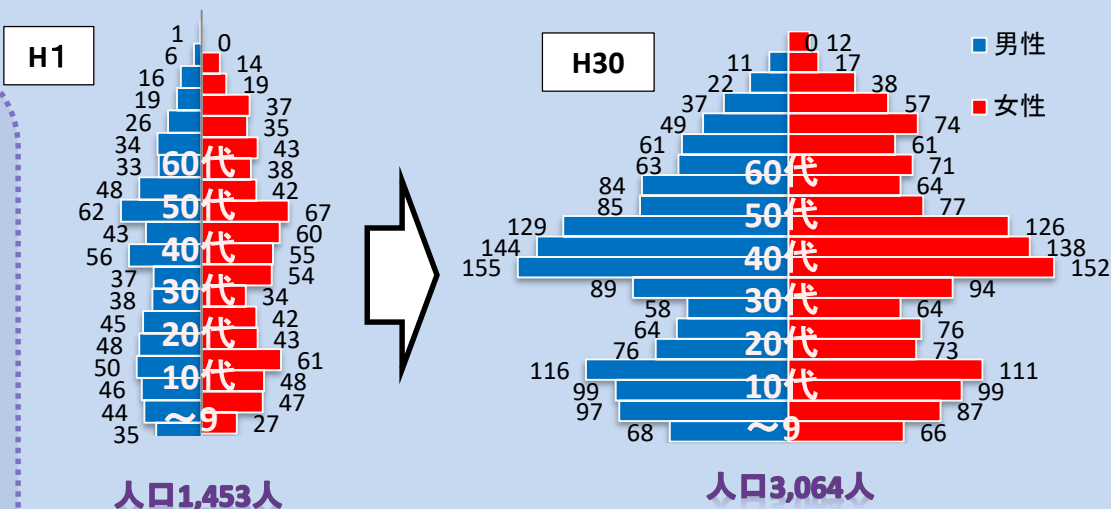
藤ノ木はH10の1/2に

地価公示価格

## 核家族割合の増加



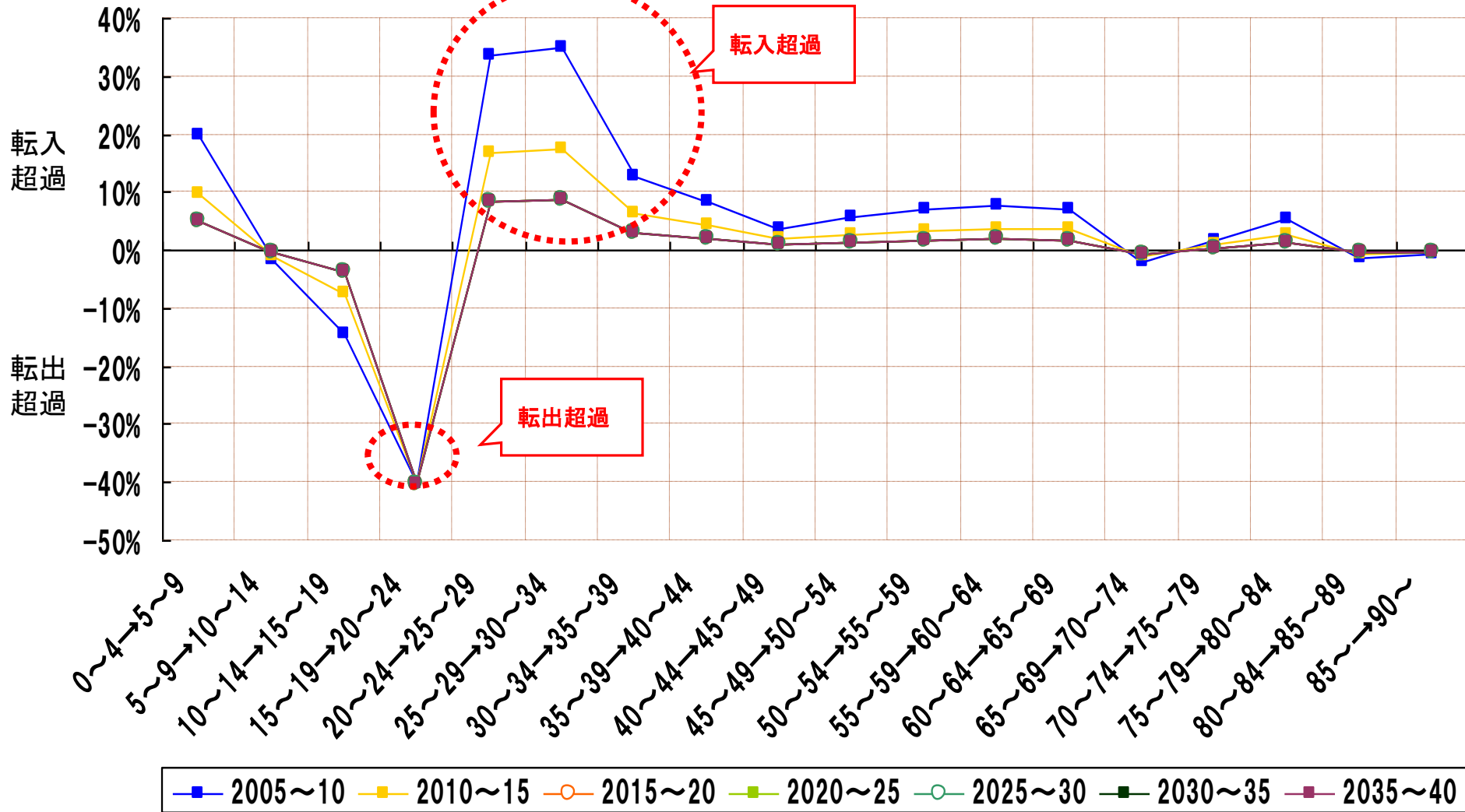
## 歪な年齢構成



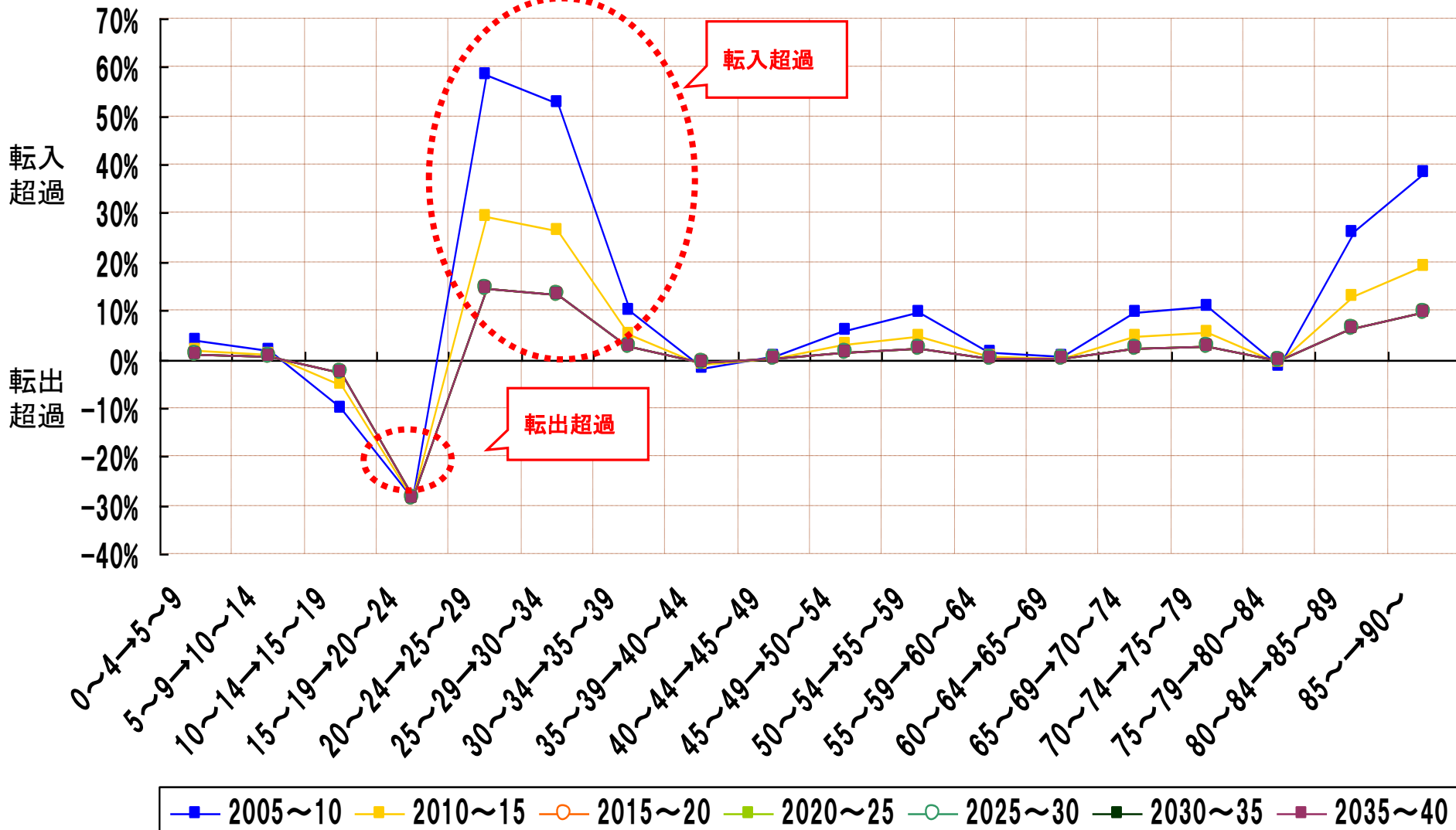


# 村の現状・今後の課題分析

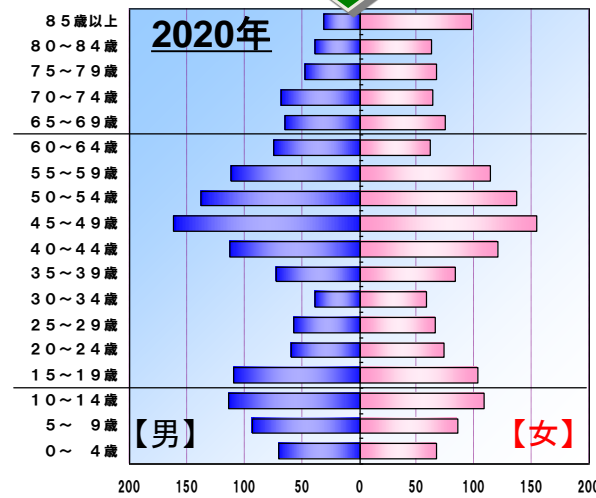
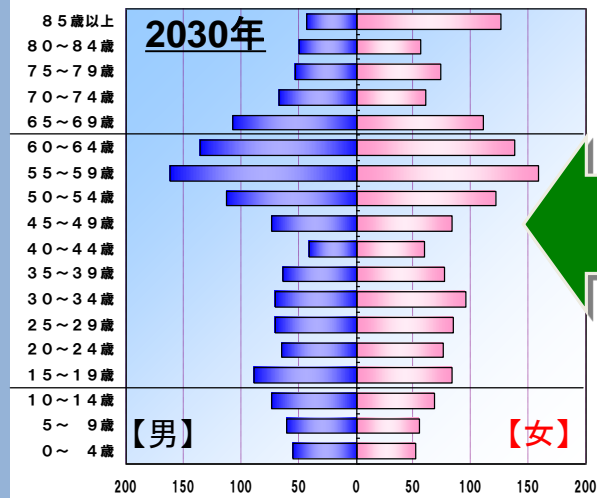
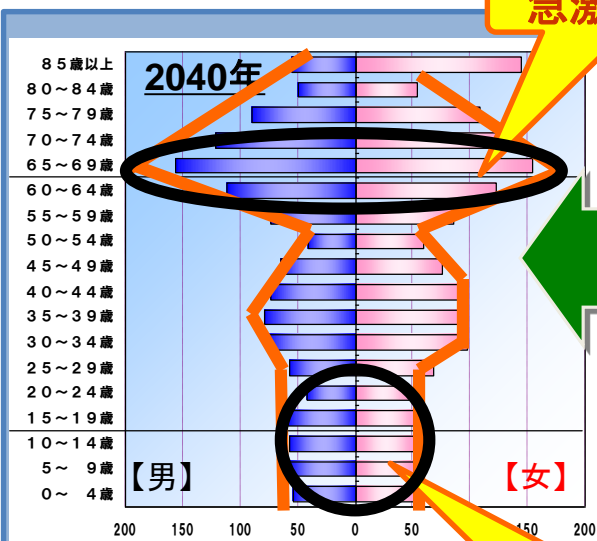
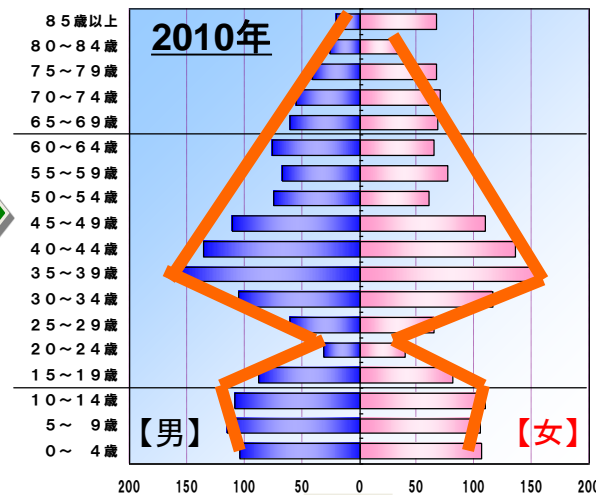
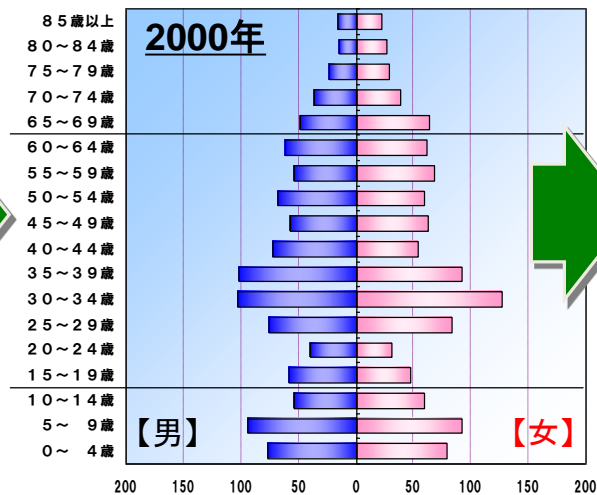
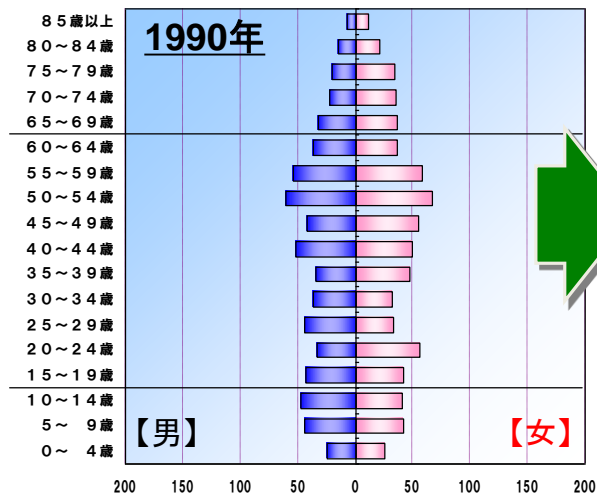
## ①-A 移動率の推移(男)



# ①一B 移動率の推移(女)



# 人口ピラミッドの予測



急激な高齢化

深刻な少子化



# 3. 全国の自治体や企業による取り組み

## 長野県下條村

～ 共助のまちづくりによる出生率の向上 ～

危機感の共有

1.9

### ◎資材支給事業

村道や農道・水路などの整備を住民自らが行き、村はその資材を支給

### ◎村営集合住宅(2台分の駐車場がついて月3万6000円)

村が入居資格を定め入居者を選考委員会にて決定。入居資格を子育て世代に限定し、

**地区(区、常会、組)と消防団に加入**のうえ、その活動に積極的に協力をすることなどを条件としている。

### ◎子育て世帯への助成

中学3年生までの医療費無料化  
村営保育園の保育料を20%値下げ  
義務教育の給食費40%補助 など

## 積水ハウス

～ひとえん～

「地縁」「血縁」「知縁」の3つの「ちえん」をつなぐ「ひとえん」事業

～ CSR から CSV へ ～

※地域コミュニティという地域課題に取り組むことで、事業価値や競争力を確立



UR都市機構ヒアリング

埼玉県子育て共助のまち普及モデル事業

- ・16区画の分譲
- ・コミュニティに配慮した配置
- ・中心部は交流スペース、車は入れない
- ・入居後のまちづくりを意識し、入居後の条件を付して分譲

## 旭化成ホームズ

### ◎子育て共感賃貸住宅「母力」

## ・子育て、コミュニティで他社と差別化

- ・商品開発課程で**お母さん大学と連携**、お母さんの不満、不安を収集
- ・良好なコミュニティ形成のため、**入居者選択、住民憲章**
- ・子育て世代にターゲットを絞った空間設計(中庭からリビング等)
- ・お母さん大学と連携した入居者サポート(イベント開催、声掛け)

### ●暮らしの質の変化(アンケートで過半数)

- ・立ち話をするようになった
- ・子どもを預けたり助け合いが生まれた
- ・非常時に助け合えると感じる
- ・子どもが楽しそう
- ・他の入居者に何かしたい



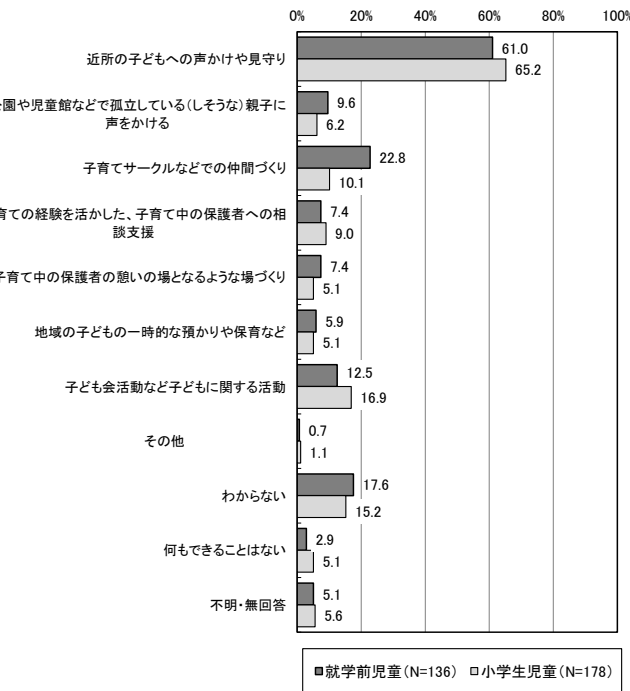
# 参考

# 子育て環境に関するアンケート調査(H25) 未就学児童の保護者へのヒアリング(H25～) 舟橋村子ども・子育て会議での意見(H26)

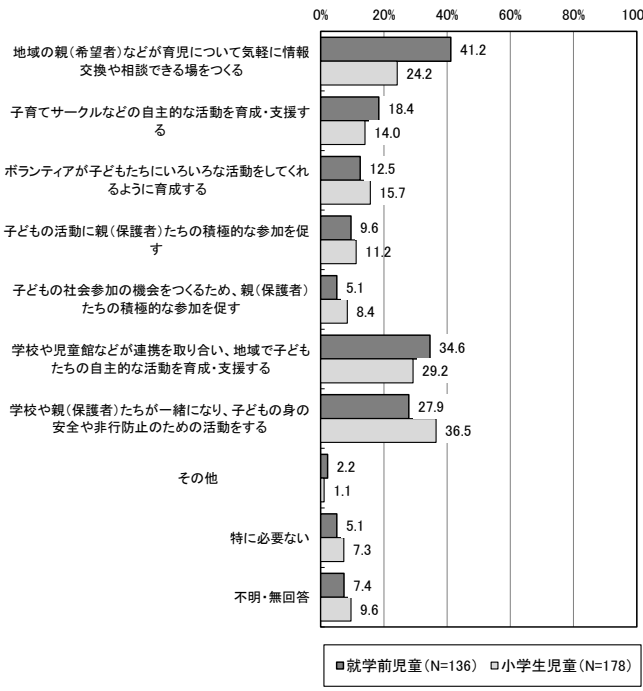
アンケート調査より  
※有効回収率81.8%

安心して子育てができるために、

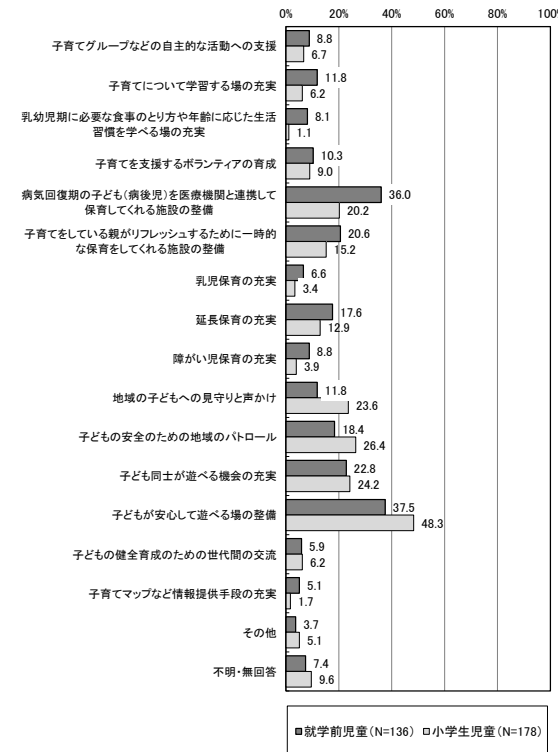
## ■あなた自身ができること・していきたいこと



## ■地域でできること



## ■行政にしてほしいこと



## 保育・教育環境

(村内に保育所・小・中学校は1ヶ所ずつ。学童保育施設はあるが、子育て支援センター・幼稚園はなかった。)

- ・小さくても良いので毎日行ける支援センターをつくってほしい
  - ・子供が楽しめるような親子で一緒によいイベントがあると良い
  - ・親もイベント等の運営に関わる活動ができればよかった
- ・子どもの数の増減があるので、早めにニーズや需要数を把握してほしい
- ・携帯電話などでもっと子育てに関する情報を発信してほしい
- ・学童保育時間を延長してほしい
- ・3年生までとなっている学童保育の対象を6年生まで拡大してほしい
- ・第3子の保育料を完全無料化してほしい
- ・休日保育・病児保育をしてほしい
- ・利用ルールがめんどうなので、もっと使いやすくしてほしい
- ・認定こども園がほしい。今の制度だと、2人目を妊娠した場合、①育休を1年にして、そのまま保育所に1人目を入れる若しくは、②育休を1年以上にして保育所を辞めるという選択肢しかない。私の場合、育休は3年までとれるが、保育所の関係で1年しか取れない。

## 子どもの遊び場などの整備

※オレンジパーク・都市公園・京坪川河川公園の愛称

- ・オレンジパークに水遊びができる場などがあれば良い
- ・遊具がもっとほしい
- ・雨の日でも遊べる場所がほしい
- ・子どもをいつでもすぐに連れて行ける病院が近くにほしい
- ・オレンジパークも魅力がない。遠くても楽しい場なら行くと思う。

## 近所・地域の見守り、相談相手

- ・気軽に相談にのってもらったり話だけでも聞いてくれるような人がいればいい
- ・母親が少しでも息抜きできるように
- ・子育ては親(特に母親)の心のケアが大事だと思う
- ・孤立しやすい親が多い
- ・周りに頼れる人がいないので、一緒に子育てできるような人や環境がほしい
- ・地域に見守られながら子育てがしたい
- ・子どもの教育やしつけの前に、親がもっとしっかりと地域や町内の人とコミュニケーションをとるべき
- ・学校が終わったあと、宿題や勉強を見てくれる人や昔の遊びなどをして子どもと遊んでくれる人がそばにいたら
- ・昔の日本みたいに、どこの誰の子でも悪いことをしたら、叱ったり注意できたり、良いことをしたら、ほめてあげることのできる大人たちに囲まれた環境になれば、子供たちも心豊かな大人に成長すると思う



# 参考 子育て支援賃貸住宅ニーズ調査(H27)

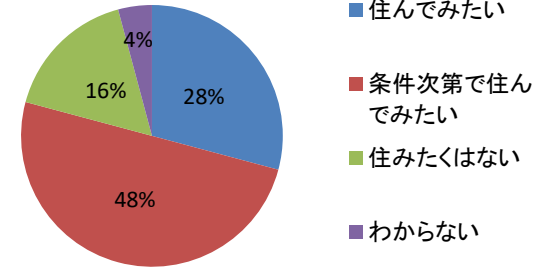
## ①ヒアリング調査

対象：舟橋村子育て支援センター利用者(25名)

Q.「母力」に魅力を感じるか

- ★現在は近所にママ友や頼りになる人がいない。もっと交流できる場がほしい。
- ★いろんな人と知り合うきっかけになるし、地域で子育てできる環境は理想。
- ★「母力」に魅力を感じる人は約76%。

特に、「お母さんステーション」や「中庭とリビングアクセス」「母力サポーター」「入居者イベント」が好評



## ②インターネット調査

対象：富山県内に在住し、20～30代の夫婦のみの世帯または第一子が未就学児の既婚者

・富山県内の入居希望者数の推計

(100名)

- ★心強い、暮らしにゆとりが持てる
- ★母親目線の設計
- ★家族が孤立せずにいられそう。行けば誰かと話したり、遊んだりできそう。
- ★ふっと相談しやすい場所や環境があると思うと、思い詰まず、余裕が生まれると思う。
- ★子育て支援賃貸住宅へ入居意向があるのは約35%

		総人口	子育て支援賃貸住宅への入居可能性のある世帯人員(※1)	子育て支援賃貸住宅への入居意向(※2)	子育て支援賃貸住宅への入居希望者数	総人口に対する割合
			A	B	A×B	
男性	20代	50,210	30,274	40.0%	12,109	24%
	30代	76,089	54,452	25.8%	14,048	18%
女性	20代	47,534	30,946	42.9%	13,275	28%
	30代	71,888	52,664	38.0%	20,012	28%
合計		245,721	168,336		59,444	24%
(参考)富山県全体		1,093,247	-	-	-	-

資料：「平成22年国勢調査」  
 ※1 次の「世帯の家族類型」に属する20代、30代の男女別の世帯人員  
 ・夫婦のみの世帯  
 ・夫婦と子供から成る世帯  
 ・夫婦、子供と両親から成る世帯  
 ・夫婦、子供とひとり親から成る世帯  
 ※2 アンケート調査において「入居しても良い」、「条件によっては入居しても良い」と回答した者の割合

## 【結果】

- ★「母力」のような子育て支援サービスの付加された住宅に対するニーズは県内でも高い
- ★家賃については、相場並みが大半を占め、上乗せ額は5,000円まで
- ★地域ぐるみでの支援は多くの人と知り合いになれて、子どもの教育にも良いとの意見

# \* 先駆事例研究を通して

Ex) 長野県下條村、鹿児島県伊仙町 等

子育て世帯の流入

## ① サービス機能について

- ・ 延長保育時間の延長
- ・ 一時預かり事業の充実
- ・ 病児・病後児保育の実施
- ・ 学童保育時間の延長
- ・ 学童保育受入れ対象学年の拡大
- ・ 子育て支援センターの設置
- ・ 保育所の認定こども園への移行
- ・ 子育てサロンの充実
- ・ 保育料・幼稚園利用料の3子無料化
- ・ 小学校入学後の特色ある子育てサービス

## ② 施設について

- ・ オレンジパークを使いやすく
- ・ 雨天時における子どもの遊び場
- ・ 舟橋会館を使いやすく
- ・ 小児科医院の誘致

## ③ 共助について

- ・ 通学等の見守り機能の充実
- ・ 昔の遊びや郷土料理
- ・ 地域のボランティア等による活動支援
- ・ 保護者同士が交流、助け合いができる場

“舟橋村でなら子どもをもう一人産みたい”と思える環境  
(出生率の向上)

地域の共助づくりに  
民間企業が参入

Ex) 積水ハウス、ユーカリが丘 等

# \* H26 地域全体で“持続可能な地域”を



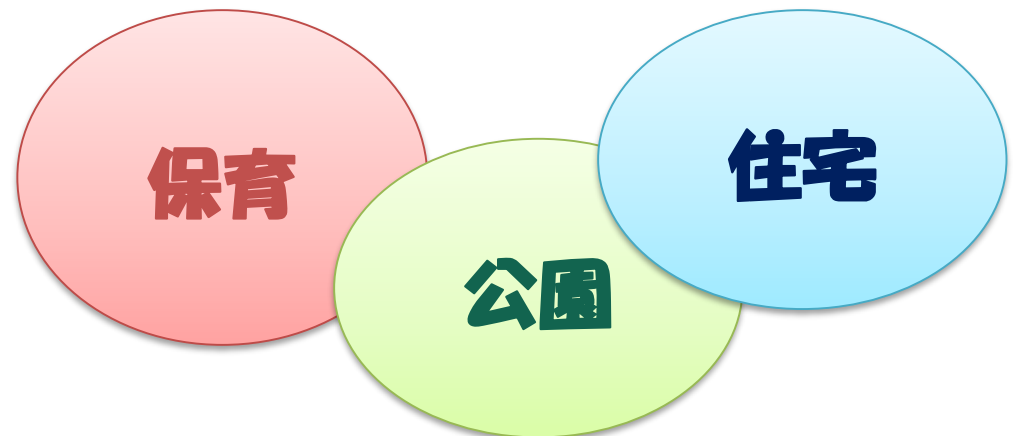
**H26 産学官金**による**勉強会**

H26秋 国の「地方創生」事業発表



# \* H27.3 事業者選定プロポーザル

優先交渉権者の決定



# \* 優先交渉権者との意見交換・情報提供



- ・全国の事例紹介
- ・村の課題や事業イメージの共有

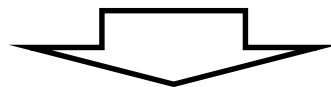
“子育て共助”のまちづくり

事例を県内各地に波及拡大

# \* “地方の壁”

**実施手法、県内ニーズの顕在化、投資リスクの軽減が必須**

**商品企画力・資金力・コミュニティ形成力の不足**



PBL (Project Based Learning) による「自ら学び、考え、動く」人づくりが必要



# 3. 舟橋村創生”プロジェクト

平成27年度～

## 舟橋村創生プロジェクト総合推進会議

【異業種間連携の **フラットフォーム** づくり】

(PDCAサイクル)

施策提案～情報・意見交換～事業内容決定～事業実施～事業検証

		構 成 員
産	住宅	積水ハウスグループ
	保育	富山YMCA
	造園	金岡造園、福田園、柴崎農園
	通信	Asmama
学	富山大学地域連携推進機構	
官	舟橋村	
金	北陸銀行、富山第一銀行、富山銀行、富山信用金庫、日本政策投資銀行	
その他	富山県緑化造園土木協会、常願寺川公園スポーツクラブ	
オブザーバー	財務省北陸財務局富山財務事務所、舟橋村議会地方創生特別委員会	

全員がプレイヤー  
という意識で

※R1.8現在の参画事業者

# 舟橋村が目指す地方創生のイメージ

相互のコミュニティ醸成と子育て支援環境の向上を目指し、空間内で人と人をつ結びつける様々な仕掛けを提供

## 子育てコミュニティ賃貸住宅

- ・子育て世代の転入を促進する戦略的な受け皿
- ・入居者同士のコミュニティを醸成する仕掛け
- ・住宅のマネジメントにはローカル企業や村民が積極的に関与

## 住み替え支援

- ・子どもの成長に合わせて、村内戸建て住宅への住み替えを支援
- ・地域金融機関と連携して住み替えインセンティブを創設

## 村内戸建て住宅



## ICT子育て支援サービス

- ・子育て世代や団地の中老年世代等のコミュニティ形成に役立つ、ICTサービスを提供（スマホアプリ、ケーブルテレビ活用等）
- ・村外にもアピールして“子育てしやすい舟橋村”ブランドを浸透させる



## 出生数の向上

(149人/5年間)

★舟橋村に転入

★将来は住み替え

ICT



## ビックデータを活用したCSVビジネス

- ・子育て世代等の意識・行動ビックデータを収集活用して、村独自のコミュニティ形成につながるICTサービスの開発を行う一方、ビックデータ分析を活用し多分野での新たなCSVビジネスを創出

★舟橋の地域課題をビジネスベースで解決  
→それがローカル企業の新しいしごとに!

雇用創出



## 県内企業のしごとづくり

※地域の困り事をビジネスベースで解消する取組の実践  
(1団体/5年間)

## パークマネジメント

- ・県内造園業者がコーディネート
- ・子育て世代や団地の中老年世代等が繋がる「公園の使いこなし」イベント等を企画運営
- ・コミュニティ醸成とローカル企業の仕事づくりを目指す

チーム



## 子育て支援サポーター・リーダー

- ・賃貸住宅、保育園、公園等でのコミュニティ醸成を戦略的に進めるマネジメントチームを編成
- ・チームは村民やローカル企業等から構成

## モデルエリア

- ・子育て世代や団地の中老年世代等が集まる公園・保育園を配置したコアエリアを形成
- ・コミュニティによる支え合いを戦略的に生み出す

モデルエリア

認定こども園



公園



賃貸住宅



## 子育て世代の転入促進

(40世帯/5年間)

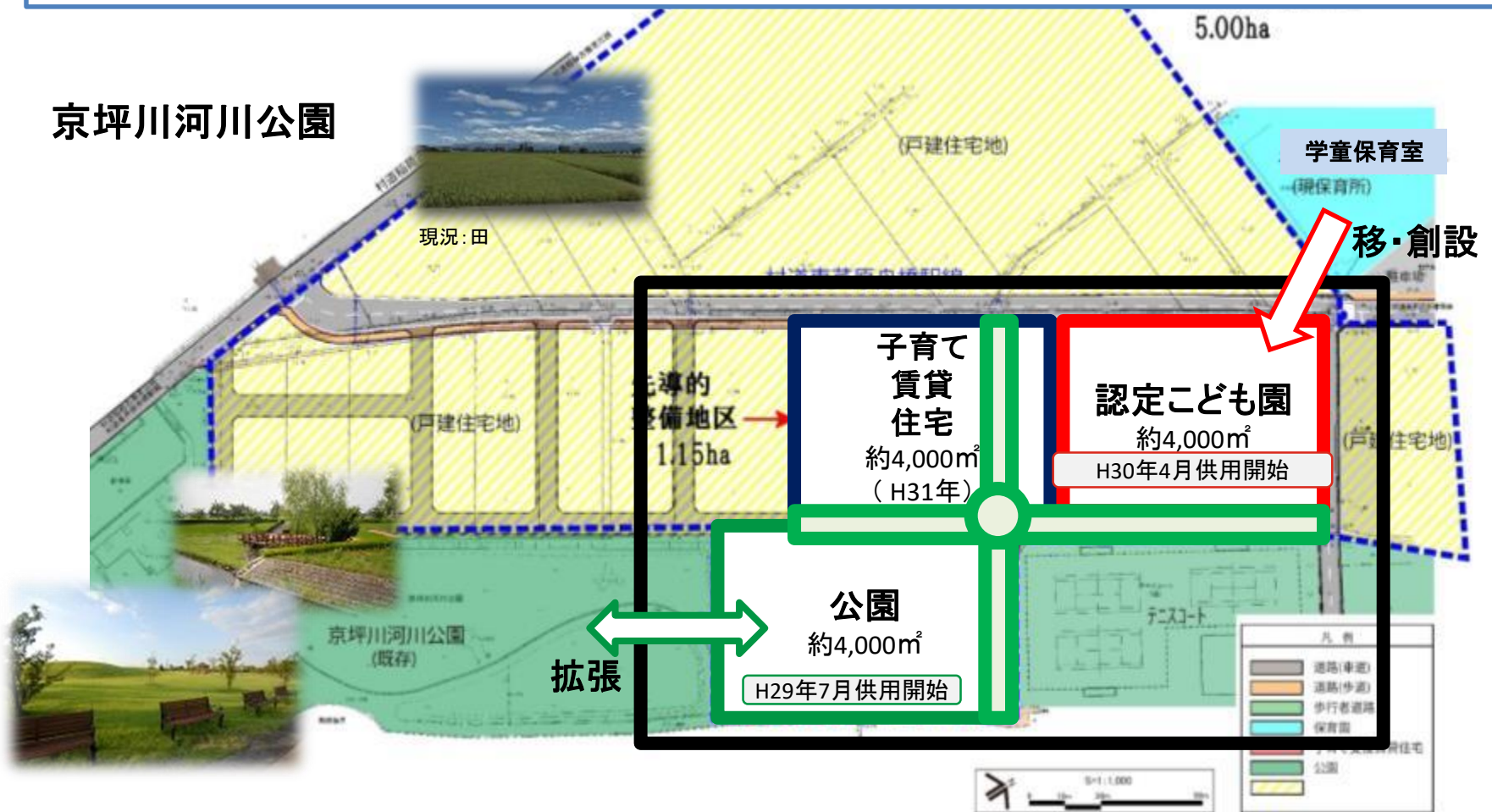
子育て世代



# モデルエリアの整備

- モデルエリアは「先導的整備地区」と「開発誘導地区」から構成
- 「先導的整備地区」には①子育て支援賃貸住宅、②京坪川河川公園（拡張）、③認定こども園があり、それらの区画を結びつける4つの通り（エントランス通り、子育てコモン通り、公園通り、保育園通り）と1つの広場（センターサークル広場）を整備
- 「開発誘導地区」は子育て支援賃貸住宅からの住み替えのためのスペース
- これらの空間が様々な人達に“使いこなし”、“使う人達の繋がりができ”、“舟橋村の子育てサービスの好評価に結びつき”、“子育て世代の転入促進と出生率向上”、“県内企業の仕事づくり”に結びつけることが目標

## 京坪川河川公園





# 4. プロジェクト進捗状況

## ◎モデルエリア周辺全体像



子育て支援センター

### 子育て賃貸住宅

- 国交付金申請
- 事業者選定に向け、PPP/PFIを含めたスキーム・スケジュール等検討
- 事業者等へのサウンディング調査
- 設計・施工事業者選定

勉強会の開催



### 認定こども園

～地域とともに子育てを～

- 40代～60代女性宅訪問、興味関心を聞き取り  
⇒今後サポーター育成へ



センター  
サークル



- 拡張部分の整備・供用開始
- 「園むすびプロジェクト」パークマネジメントに向けたイベント等の開催
- FPV(ふなはしパークボランティア)募集
- 子育てママへのヒアリング・住民WS・SNSでの情報発信

～造園事業者による公園を使った子育て共助のコミュニティづくり～

公園



“日本初”覚書締結  
勉強会の開催

覚書締結  
先進事例ヒアリング

ICT



- スマホアプリの開発・社会実験
- ビッグデータ収集



平成29年1月20日(金)

# \* “日本初”地方創生に関する覚書の締結

舟橋村・富山大学地域連携推進機構・(一社)富山県緑化造園土木協会・(一社)日本造園建設業協会富山県支部・(一社)日本造園組合連合会富山県支部 との

## 「舟橋村における「公共空間の整備・利用」による子育てコミュニティづくり事業に係る連携協力に関する覚書」

人口減少問題は全国各地、そして行政だけではなくあらゆる業種の民間企業の将来を左右する課題。コミュニティを生み出し、“地方創生の核”として機能する役割が求められる。



将来に対する大きな**危機感**。  
近年は庭のない家がその大半を占め、公共工事の削減・予算縮小も著しく売上げが年々減少傾向にある上、**今後少子高齢化が進み、人口減少が進めば、仕事はさらに減ることになる。**

H28

\* 県内造園事業者勉強会

H29

\* 造園イノベーション塾

伴走  
バックアップ

子育て世代の転入や出生率の向上という地方創生の目標に対して造園業者として何ができるのか、公園での子育て支援やコミュニティづくり等のマネジメントスキルを自ら学び、  
これからの時代に求められる造園業の“新たな仕事”づくり

目的

- ① 造園業の新しい「しごと創出」のきっかけづくり
- ② 舟橋村のモデルエリアに対するアドバイス

- 1回あたり2時間～2時間半程度の勉強会を、H28年度～H29年度の2ヶ年にわたって実施
- 専門家等の講義、参加者同士のディスカッション・アイデア出し等を実施（H30年度は希望者に対するゼミ形式でのビジネスプランづくりを実施中）

内容



## 対象者

- 富山県緑化造園土木協会、日本造園建設業協会富山県支部、日本造園組合連合会富山県支部に加盟する造園業者

## カリキュラム

	平成28年度	平成29年度
名称	県内造園業者勉強会	造園業地域イノベーション塾
ポイント	国の都市公園政策の転換やパークマネジメント、コミュニティ等の先進事例を知ること	人口減少から生ずる地域課題に対して造園業がビジネスとして取り組めることは何かを考えること
時期・回数	H28.11～H29.3 (5回)	H30.1～H30.3 (4回)
プログラム	<p>①オリエンテーション、モデルエリア視察</p> <p>②政策研究            &lt;新たな時代の都市公園のあり方&gt;            【ゲストスピーカー】            国土交通省都市局公園緑地・景観課 企画専門官 平塚勇司</p> <p>③先進事例研究            &lt;パークマネジメントの国内外事例&gt;            【ゲストスピーカー】            室蘭工業大学大学院工学研究科 准教授 市村恒士            NPO法人登別自然活動支援組織モンガくらぶ 事務局長 吉元美穂</p> <p>④先進事例研究            &lt;コミュニティを強みとする賃貸住宅&gt;            【ゲストスピーカー】            (株)ニッセイ基礎研究所社会研究部 研究員 塩澤誠一郎            旭化成ホームズ(株) 室長 高橋 浩介 課長代理 玉光祥子</p> <p>⑤ケーススタディ検討            &lt;京坪川河川公園周辺整備地区の活用&gt;</p>	<p>①都市公園に係る行政・民間の動向            &lt;政策、公園・造園業データ、行政・民間事例&gt;            【講師】            (株)日本能率協会総合研究所 主幹研究員 塩見一三男</p> <p>②人口減少・地域課題            &lt;富山県人口ビジョンによる人口推計&gt;            【講師】            (株)日本能率協会総合研究所 主幹研究員 塩見一三男</p> <p>③地域再生論            &lt;地域づくりの新たな潮流&gt;            【講師】            富山大学地域連携推進機構 教授 金岡省吾</p> <p>④CSV事例研究            &lt;Amitie、CSVビジネスモデル&gt;            【講師】            木村産業(株) 常務取締役 木村良秀            (株)日本能率協会総合研究所 主幹研究員 塩見一三男</p>

# オレンジパーク これまでの取り組み〔1～2年目〕

## 平成27年度

子育て支援センター、図書館で**ヒアリング**を実施。  
・・・利用者がどんな公園を必要としているかを理解



ヒアリング風景

## 平成28年度

たくさんのイベントを実施。初回イベント**参加者3名**

**[ポイント]** 公園・造園業だけで人を集めるのはハードルが高い



子育て支援センターとの**共催・連携イベント**を実施。  
公園に多くの親子連れを呼び込みことに成功。  
参加者からも好評。でも、これってイベントの仕事！？



イベント風景

**[ポイント]** “人が集まるイベントの開催” が目的なら合格だったけれど・・・  
「イベントを開催しているときだけ人が集う公園」が理想ではない！



**人を巻き込むための活動**を開始。“園むすびプロジェクト”誕生

**[ポイント]** 「ボランティア募集」で人は集まらない  
造園業従来知識や経験からいかに抜け出すか？・・・大きなハードルに。



# オレンジパーク これまでの取り組み〔3年目〕

## 平成29年度

目的をもって、丁寧にイベントを企画・運営。

- ① 共催・連携(人を集めることに長けているわけではない・・・そこに労力を払わない)
- ② 次につながるイベントであること
- ③ 公園を一緒に作る人・公園を動かす人を生み出すこと

ぼく・わたしの  
苗木をつくろう



みんなで植えた野菜の収穫



本物の笹で  
七夕かざり

あとがき作った公園なんてつらい！  
公園は、ぼくらが、わたしたちが、のっとる！

### オレンジパークを日本一おもしろう公園にしちゃうプロジェクト こども公園部長募集

さあ、公園をいっしょに作っている、公園でいっしょに遊ぶ小学生、出番ですよ！

- ①-1 ぼくらの公園をいっしょにしよう！
- ①-2 わたしたちの公園をいっしょにしよう！
- ②-1 ぼくらの公園をいっしょにしよう！
- ②-2 わたしたちの公園をいっしょにしよう！

みんなのアイディア、カタチにしよう。  
日本一おもしろう公園  
いっしょに作ってくださるこども公園部長を募集します！

こども公園部長 応募のあしり

1. 3歳以上小学生1～6年生であること
2. 2歳以上の自分1人で行動していただけること  
(お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、誰でもOK)
3. オレンジパークを日本一おもしろう公園にしようと思っておられること

★おうちの方向へ★  
活動予定は毎月1回です。こども公園部長にあつちの存在を伝える活動もお願いしております。  
お仕事や勉強に忙しい場合は、無理にこども公園部長を募集しません。

★期1回お仕事を、身元保証書等申請書 TEL: 078-444-1121(内5)

応募方法  
・こども公園部長 応募用紙に記入して郵送し、役所または児童館等に提出してください。  
・こども公園部長の名刺を作成するのでも、応募時連絡に記入してください。

こども公園部長 応募用紙

こども公園部長の名前	学 年	青森小	年生
一緒に参加してくれる おうちの人の名前	電 話	( )	
こども公園部長として 応募させていただきます	メール		

**【ポイント】 人が集う公園への近道は、公園のファンをつくること、公園に愛着を抱いてもらうこと。**

自分や我が子の手が加わった、思い出のあるものが公園にあること。  
= 公園への愛着の鍵になる！



# 園むすびプロジェクト こども公園部長の誕生

「公園のことは公園をよく知っている人に聞くのがいちばん」

⇒小学生を対象をしばり **こども公園部長** 募集



思いっきり泥遊び！



思いっきり水風船バトル！



【ポイント】 こどもたちのなかには、  
「公園には禁止がいっぱい」という固定概念が・・・。



意見をもらうだけの  
形式的なワークショップにしない

子どもたちが  
企画から資金調達、運営、管理までを担う

いかに“自分たちの手でつくる公園”と感じてもらうか  
そのためには、時間も手間も惜しまない

クラウドファンディングに関わった多くの人たちが  
この公園に関心を抱き、自分が関わった公園として愛着をもっ  
て、子どもたちの公園づくりを見守ってくれるように…

目標金額の254%達成!



# 園むすびプロジェクトの取り組み (平成30年度～)

## 月イチ園むすび スタート!

月替わりでちょっと変わったイベントを企画しながら  
公園を舞台に人の輪を広げよう! という取り組み

平均参加者数200人 (MAX900名弱)

H30.11.3開催の  
年イチ園むすびは  
なんと! 867名!

数で勝負はしない。  
でも、なぜこれだけのファンが  
ついたのかをフォローしたい。





# 園むすびプロジェクトの取り組み（平成30年度～）

## 本物の生垣で作業させる理由は？

丹精込めて世話してきた生垣はボコボコ

何を目指してこんなこと？

何が大事？

公園に自分が剪定した木がある  
子どもたちは、誇らしい  
間違いなく、公園に愛着を抱く・・・

「あの公園にはぼくが作った遊具がある」

「あの公園の生け垣は私が剪定した」

「あの公園に行けば楽しいことがある」

「あの公園でしかできないことがある」

「与えられるサービス」から「関わる楽しさ」へ

・・・新しい公園のカタチ？



造園屋さん体験

[ポイント]

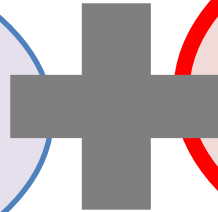
“繋がる安心感”と“関わる楽しさ”がヒットしている

# 参考 転入者アンケート・ヒアリング(H27～)

## Q.舟橋村を選択した理由は？

### 【従来型ニーズ】

利便性が良い  
実家が近い  
土地が安い



### 【新たなニーズ】

子育て支援センター  
オレンジパーク

オレンジパークが良い。子どもを連れて遊びに行ったが、子どもがポンプの遊具で夢中で遊んでいた。そういう遊び場が近くにあるのはうれしい。

舟橋村で暮らしたいと思った大きな理由は、子育て支援センターぶらんこと村立図書館。小学校に上がったときにも、横のつながりがあって、困ったときには助けてくれそうな”雰囲気”。つながりは気持ちの余裕を生むと思う。

家を建てようか迷っていたとき、友達に「舟橋村は子育てが充実しているから良いよね」と言われた。



# なぜ今、公園か？ ～公園が秘める可能性～

舟橋村地方創生プロジェクトでは…

「この子育て賃貸住宅があるからここに住みたい」

「このこども園があるからここに住みたい」

「この公園があるからここに住みたい」

そう思ってもらえなければ

**「失敗」**

**理想…でも、本当？**

今、「どうして舟橋村にマイホーム？」の問いに

「オレンジパークがあるから」と回答する世帯が…

「こんな公園があるくらいだから、

ここはきっといいまちだ」

その期待感が、人を呼び込む

公園はいちばん身近な“社会”

公園が人口減少を歯止めする“場”“拠点”に

「この公園があるからここに住みたい」に繋がる公園…

**“舟橋型”パークマネジメント**



# 「第34回都市公園等コンクール」で 最高賞の 国土交通大臣賞を受賞



2018年(平成30年)9月28日(金曜日)

富 山 新 聞

舟橋村(金沢府船橋村)が公園を舞台に進める地方創生の取り組みが、一般社団法人日本公園緑地協会の第34回都市公園等コンクールで最高賞の国土交通大臣賞(特定テーマ部)を受賞した。同協会が27日発表した。行政、造園業者、大学、住民が公園を軸に連携し、地域活性化につなげており、同協会によると「公園が秘める可能性を地方から発信していることが高く評価された」という。

**富大と造園3団体も**  
受賞したのは舟橋村中心部のオレンジパーク(京浜川河川公園)で行われている「人口減少」という地域課題の解決に向けた取り組み。連携して事業を進める同村、富大地域連携推進機構、県緑化造園土木協会、日本造園建設業協会、日本造園組合連合会、国土交通大臣賞、1990年度に小矢部市の「城山公園」が施工部門で建設大臣賞を受賞している。

来月26日に都内で開かれる「ひろげよう、育てよう」みどりの都市 全国大会で表彰式が行われる。

日本公園緑地協会コンクール

## 舟橋村の公園 最高賞



「月イチ園むすび」で行われた「一日限りのウォーターパーク」  
＝7月、舟橋村のオレンジパーク

**住民と連携して活性化**

**「地方から可能性発信」**

の公園の設計図を描いて、資材をインターネットのクラウドファンディングで募った結果254万円が寄せられた。水遊び場や秘密基地を「公園の固定概念」を取り替える。毎月「月イチ園むすび」と銘打ち、子どもや保母の取り組みは、こども公

護者のアイデアを生かして活動を盛り広げている。協会によると、特定テーマ部門は「多様な主体の新たな参画・協働による都市公園」などが対象で、舟橋村の取り組みは、こども公

園部長ら幅広い公園利用者の参加を実現し、ネットによる資金調達の実験などが「公園の固定概念」を取り替えているとして評価を受けた。

5部門に23作品の応募があり、大臣賞4点には舟橋村のほか、東京・文京区の大名庭園、肥後細川藩園改修工事などが選ばれた。

県内では2016年度に富山市の「富山城址公園」、日本陸園・茶屋、13年度に同市の「曇石河内環水公園」が設計部門で国土交通大臣賞を受賞、1990年度に小矢部市の「城山公園」が施工部門で建設大臣賞を受賞している。

# オレンジパークでの造園屋さんのしごと

## 特徴①“造園業者がコーディネートしている”ということ

芝刈りや樹木の剪定などの「公園管理」だけじゃない。  
「コーディネート」という“新しいしごと”を公園を舞台に。

## 特徴②“公園の使いこなしを意識している”ということ

きれいな公園よりも、  
たくさんの人に使いこなしてもらえる、遊びこんでもらえる公園へ。

## 特徴③“コミュニティの醸成を目指している”ということ

公園に人が集い、  
人と人が繋がり、人の輪が生まれることを目指して。

## 特徴④“造園業の自立自走を目指している”ということ

「こんなことができる造園業者ならうちも」  
そう思ってもらえるしごとを、10年後の生き残りをかけて。

**[ポイント]** すべては「子育て世代の転入促進」「出生数の向上」  
「県内企業のしごとづくり」に向けて

社会貢献でもボランティアでもありません。「子育て世代の転入促進」「出生数の向上」という舟橋村の地域課題を解決をすることで、新しい仕事を生み、自社の価値を高める取り組みを、自社のためにやっています。



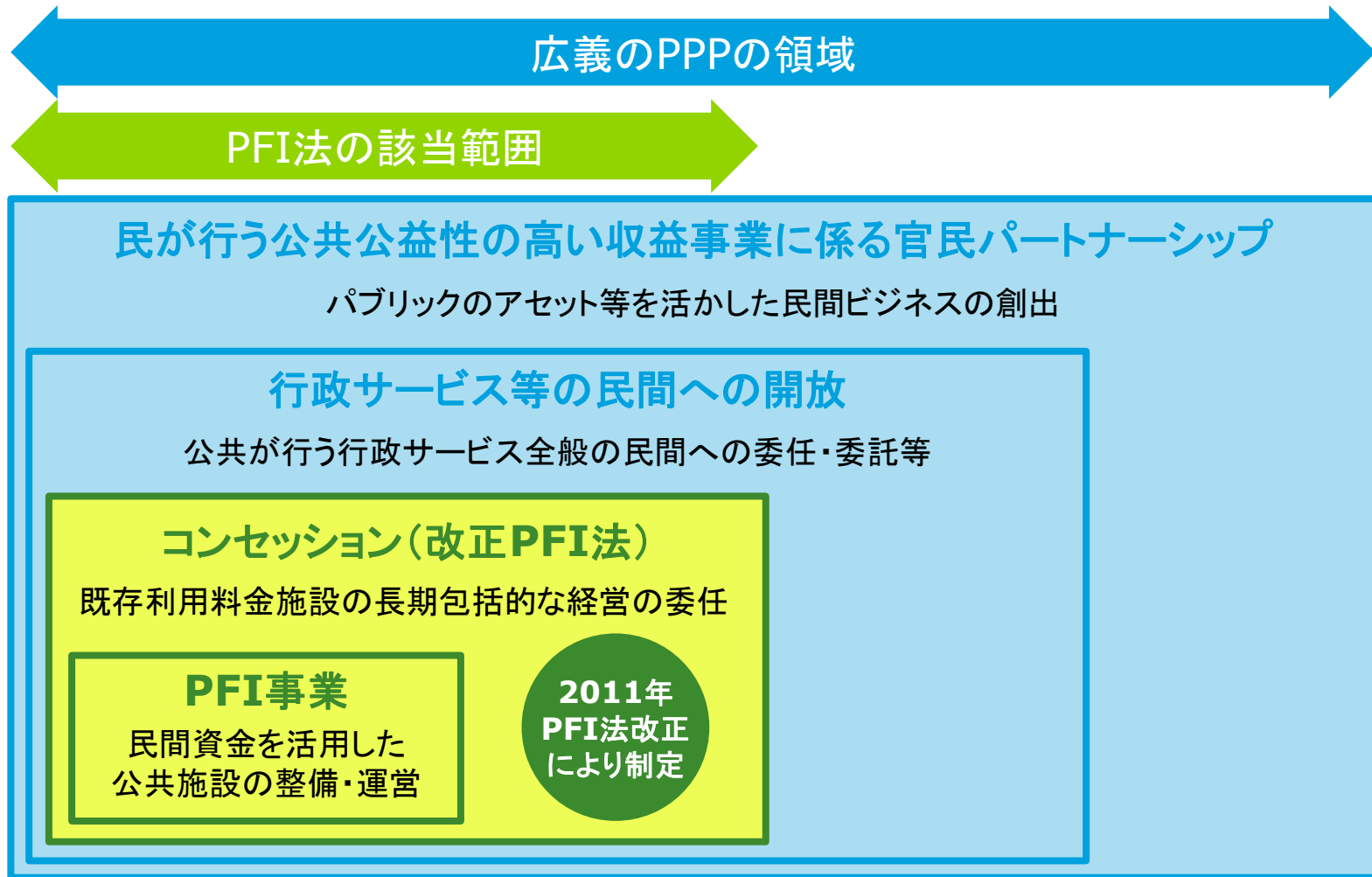
# **【まとめ】舟橋型パークマネジメントが 伝えたいこと**

仕様発注→性能発注, 課題解決PPP

## **仕様書が提案できますか？**

# ① PPP/PFIの概要

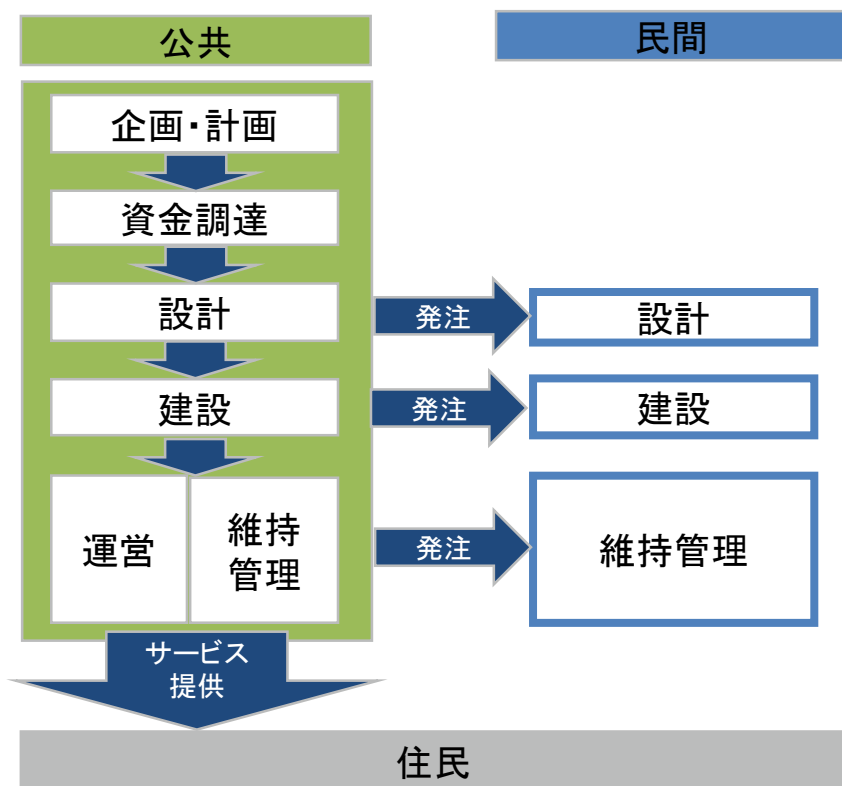
PFI法に基づく事業をPFI(Private Finance Initiative)と呼称し、より広義の官民連携に係る概念をPPP(Public Private Partnership)と呼称します。



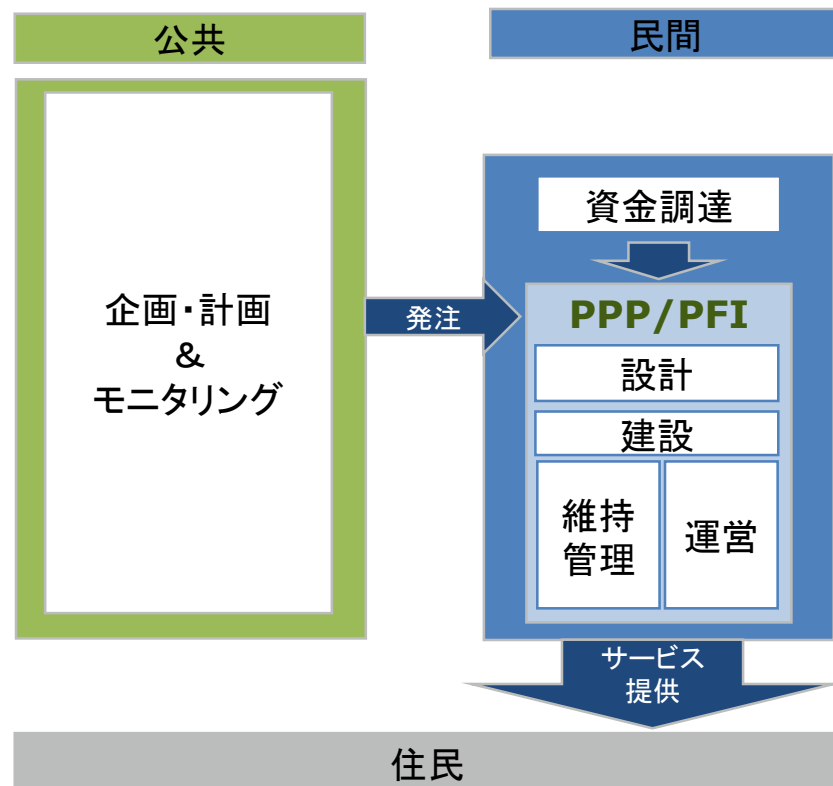
## PPP/PFI導入のメリット ①**包括発注** の場合

事業者に一括して発注することで、**公共側の人員は政策立案や企画・計画といった業務に専念できる**ようになります。

従来型の発注



PPP/PFIの発注



## PPP/PFI導入のメリット ②性能発注 の場合

性能発注により、**民間事業者に対し業務遂行に係る自由度が与えられ、業務効率化**に係るインセンティブの発揮が可能となります。

⇒ **官民それぞれにメリット**

	仕様発注(従来型発注方式)	性能発注(PPP/PFIの発注方式)
民間企業の位置づけ	管理者の補助者	運営主体・事業主体
業務の範囲	限定的委託	包括的委託
契約年数	一般的に短期間	一般的に複数年度
業務遂行に係る自由度	限定的	高い自由度
責任分担・リスク分担	管理者の責任が大	民間事業者の責任が大
効率化のインセンティブ	働きにくい	働きやすい

- 公募時に、公共施設との運営に求める成果(アウトカム)を明確に定義した「要求水準書」をあらかじめ提示
- 民間事業者は提案時に要求水準を達成するために必要となる「業務仕様」や「KPI(Key Performance Indicator)」を提案
- 公共は、民間事業者からの提案内容を前提に、民間事業者が事業期間にわたって提案内容を確実に履行しているかをモニタリング



## 事例紹介

近年、より広範な民間ノウハウを活用することによって、公共がPPP/PFIに求めるものを実現しようとする動きが出てきています。

公共がPPP/PFIに求めるものの変化

コストの縮減

より経営的なノウハウが必要に！

公共施設等の  
バリューアップ  
(資産価値向上)

公共サービスの  
水準の維持・向上

より柔軟かつ広範なノウハウが必要に！

民間ノウハウを活用した  
地域の課題解決



# “舟橋型”パークマネジメント が目指すもの

全国各地の地域課題。

それは、造園業者を含めたすべての業種の課題でもある。

そんな地域課題を解決することができる造園業がいたら…？

公園の新しい使い方を提案する造園業

そして、行政の“性能発注” → 課題解決型PPP

この2つがセットになったとき、公園は、変わる。